

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173200510		
法人名	医療法人社団 三愛会		
事業所名	グループホーム「里の家」1階ユニット		
所在地	名寄市西1条南4丁目17番地		
自己評価作成日	令和 5年 4月 26日	評価結果市町村受理日	令和 5年 6月 21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0173200510-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和5年5月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は平成15年に開設し、名寄市内で一番古いグループホームです。近隣には市役所や小学校、馴染みの店やコンビニなどの利便性の良い場所にあります。敷地内には中庭があり、春には桜、つつじが咲きます。畑には幾つもの野菜の成長を入居者と一緒に関心をもち、夏野菜が食卓に上がります。又雑祭や七夕、クリスマス会など季節や日本文化に触れられるような行事を企画し、入居者全員が楽しんで頂けるよう努力している。母体の病院から看護師が週に一回訪問し、入居者の体調面でのアドバイスを頂き、連携を図りながら常、日頃入居者の体調の変化に気付くよう努めている。当事業所では一人ひとりの生活リズムを大切に、アットホームは雰囲気でも自宅と同じように穏やかに過ごせるよう支援し、入居者の思いや意向と汲み取れるよう努力しています。認知症の方がいつまでも、楽しく生活が続くよう職員一同支援しています。

当事業所は市の中心部にありJR名寄駅から徒歩で10分程の距離にある。平成15年11月開設、2ユニット18名入居の鉄筋造り2階建て、外壁は桜色で周囲は灰色で縁取りされている。玄関横の門柱壁面にはホームの銘板が大きく表示され分かり易い建物である。1・2階同じ構造でエレベータが備えられ、共用空間は舞台風で仕切り戸がなく、和室には掘り炬燵を設え、正面の窓側は板の間になっている。床暖房で2台の空気清浄機を設置、衛生面や室温・採光等適正に維持管理され、毎週看護師が来訪し健康チェックを行っている。停電時は庭の一角に建てられた鋼板棟に自家発電装置の備えがある。事業所周辺には市役所・小学校・病院・コンビニ・日用品等が揃っているショッピングセンター等があり利便性の良い環境である。職員も明るく快活で理念の「…自由に生活…」「…楽しく生活…」「…自分らしく生活…」の3本柱を職員全員が共有し我が家同様に過ごせるよう日々取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出勤時に玄関に提示してある理念を黙読したり、理念に沿った業務目標やユニットの目標にも取り入れている。管理者や職員は理念を共有する事が出来ているが、コロナ感染症拡大防止の為、勉強会等を行う事が出来ない。	玄関を入った正面の壁に事業所の理念が額装掲示されている。理念を共有して実践に繋がっているがコロナ禍のため、細かな所までの勉強会等が出来ていない状況である。	額装が小さく、大きく表示する事で来訪者の目にも留まり、事業所に対する理解が容易となる。また、事務室や共用居間等の数カ所に掲示することで管理者や職員はこれまで以上に共有化が進み、充実したサービスの向上に繋がる事を期待したい。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	入居者と散歩に行った時には、ご近所さんと挨拶する程度である。コロナ禍で行事の中止、運営推進会議の中止等があり町内会との交流は少なくなっている。	地域の町内会に加入して会費徴収等の班長も行ってはいたが、コロナ禍のため隣近所には散歩時の挨拶程度である。以前は看護実習生の受け入れ等も行ってはいた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍前は運営推進会議や地域の方との交流をする事で認知症の人の理解や触れ合う機会があったが、現在は地域の方と交流する機会は少なくなっている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は実施する事が出来ない。二カ月に一度、市役所と町内会、ご家族に配布。事業所での取り組みや行事、事故の状況等を紙面で報告している。	本年2月のコロナ発生に続き、直後のクラスターにより運営推進会議を中断しているが、書面での報告は2ヶ月毎に行っている。コロナの推移状況を見て6月を目途に再開を予定している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の高齢福祉係や介護保険係、地域包括支援センターとメールや電話、ICTを活用し連絡、相談、報告等を行っている。協力関係は築けている。	市役所とは、インターネットでの「連絡と相談システム (ICT)」が繋がっているため、介護保険係・高齢福祉係・保護係等への介護更新やワクチン接種名簿・介護券の申請・提出等で良好な協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束をしてはいけない事を理解している。各ユニットに身体拘束委員会を置き、定期的に話し合いの場を設けている。問題点や改善すべき点を可視化し、カンファレンス、議事録等で職員全員と共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を3ヶ月毎に他の会議等と併せて開催している。また、内部研修は虐待防止等、年2回行い問題点や改善策を可視化して介護についての話し合いを議事録等で共有し尊厳を守るケアに取り組んでいる。防犯上、玄関の施錠は夜7時に行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	各ユニットに虐待防止委員を置き定期的に委員会を開催し手いる。各ユニットの問題点や虐待に繋がりがちな案件を取り上げ、虐待が起きないように取り組んでいる主に言葉での虐待が起らない様、気を付けている。			

グループホーム「里の家」1階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニットの入居者で成年後見制度を利用している方は居ない。成年後見制度について学ぶ機会は殆どなく、職員も理解している人は少ない。今後、外部での研修があれば参加したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は入居時に契約書や重要事項説明書等の説明を行っている。料金改正や介護度の変更時、書面での同意や電話での連絡をし、ご家族に理解・納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議が開催出来ていない為、ご家族からの意見や要望聞く機会は少なくなっているが、面会や外出の希望があった際には出来るだけ希望に沿える様、努力している。	コロナ禍の面会は玄関前と一部事務所のみで、クラスター時は中止している。そのため、再開の4月中旬までは家族等の意見や要望を聞く機会が少なく、現在はその都度意見を聞くなどして希望に沿うよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はカンファレンスや会議、日常の業務の中で職員からの意見や提案を聞き運営に反映している。時には母体の病院の上司に意見を求める事もある。	管理者の個別面談は全職員ではないが、年1回行い提案や要望等聞く機会を設けている。また、毎月のユニット会議等で施設長との対話を通し職員の意見や提案を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望休や身体的、健康面に配慮した勤務状況が作れる様に努力している。資格取得による昇給や賞与アップ等は就業規則に細かく書かれている。長年勤めた職員には法人から表彰もあり、向上心を持って働けている環境にあると思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修がある時には出来るだけ参加を促し、何度か研修に参加している職員もいる。スキルアップ出来るよう意見交換等をしている。資格取得を目指す職員や研修に参加する職員には勤務表の配慮を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	頻りに同業者と交流する機会はないが、同法人内で研修を行っている。今後、同業者との交流や勉強会等の機会が増えていく事を期待したい。		

グループホーム「里の家」1階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報提供書やフェイスシートを確認し、事前に施設見学に来てもらい、本人の不安や要望、家族の要望を聞いている。入居してからも入居者本人が安心を出来る様な関係が作れる様、努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者、ご家族の意向や不安、困っている事が聞けるような関係づくりに努めている。ご家族とは入居者の変化や受診の結果。出来事があれば小まめに連絡するよう、心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や他事業所、居宅介護支援事業所、病院から情報提供をして頂き、頂いた情報の中で必要な支援や援助を考えている。又困りごとや不安が軽減出来るよう、取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの習慣や出来る事を尊重し、家事仕事やレクリエーション等コミュニケーションを取ながら一緒に過ごす時間が楽しく過ごせるよう支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じ家族さんと連絡を取り、体調の変化があった時や受診の際に同行してもらおう等、共に支えていく関係が築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄弟や親戚からの連絡や入居者が希望すれば、電話を掛ける等、関係が途切れないよう支援している。又馴染みの理美容院やかかりつけ医を継続して通えるよう支援している。	4月中旬からコロナの推移状況を見ながら面会や買い物等の制限を解除、支援の希望があれば馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努め、訪問理美容は2ヶ月毎である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係は把握出来ている。入居者同士好きな場所で会話をしたり、自由に過ごせる空間づくりをしている。スタッフが繋ぎ役となり活動を通して関わられるよう支援している。		

グループホーム「里の家」1階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後は関係性は希薄になっている。他事業所や入院先の相談員、ご家族さんへ会った時には状況を聞く事もある。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	申し送りやカンファレンス、普段の生活の中で本人との会話の中から希望や意向の把握に努めている。困難な場合には表情や仕草、発語を特に意識し本人の気持ちを汲み取れるよう心掛けている。	職員間の共有は情報記録(アセスメントシート)や申し送り、会話等で把握し、困難な場合は日頃の動作や表情・家族の意見等から思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の話しや他事業所、病院等からの情報提供を元に生活環境や既往歴、サービス利用までの把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務の中で心身の状況の把握に努め、ケアカンファレンス、申し送り、連絡帳等で職員同士で情報の共有、現状の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリング、カンファレンスの際には話し合い、意見を出し合い、日々の生活の中からも支援方法を考えている。現状に即した介護計画になるよう努めている。	入居時は暫定で1ヶ月程度、その後はモニタリング評価、本人や家族の意向を聞きケアカンファレンス会議等で担当者を含め、チームで意見交換をして本人、家族の署名・押印を得て、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や出来事を細かく記録するよう努めている。又ユニットの目標にも上げ取り組んでいる。伝えたい事や受診の結果等の特記事項に記入。職員間で情報共有する事でモニタリング、アセスメント、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や家族さんからの要望をスタッフ間で共有し必要に応じたサービス等柔軟な対応が出来るよう取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの関係があり地域での行事の参加は出来ていない。近隣の理美容院には施設の理解もあり、徒歩で行ける範囲にあり、少しでも豊かな暮らしを楽しめるよう、季節に合わせた行事を施設で行っている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には継続して受診している。状況や状態によって専門医や救急外来を受診する事もあり、適切な医療を受けられるように支援している。	系列の三愛病院(内科・歯科等)がかかりつけ医であるが眼科・心療内科等の専門医や緊急外来等は本人・家族等の希望を尊重し適切な医療を受診出来るよう支援している。		

グループホーム「里の家」1階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、母体の病院から看護師が訪問している。看護師訪問時にバイタル測定や相談や、健康観察をして頂き必要に応じ受診の有無の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が同行し情報提供をしている。病院の医療連携室とも電話やICTを活用し、入院から退院までの情報交換や相談をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際には管理者から重度化、終末期のあり方について説明をしている。体調が変化し入院が必要となった場合には家族さんの意向と医師の判断を聞き、事業所で出来る限りの支援を行っている。	本事業所では終末期や看取りは行っていない。体調に変化があれば家族の意向や医師の判断の下、方針を共有して事業所で出来る限りの支援をするよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練は行なえておらず、不安がある職員が殆どである。職員全員が入居者の急変時、事故発生時に初期対応、応急手当が行えるよう実践力が身に付けるよう努力したい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春と秋に避難訓練を行い、年に1度水害を想定した垂直避難訓練を実施している。停電時の自家発電機や非常食、備蓄品、持ち出しの薬を準備している。	5月、9月の火災による避難訓練は夜間を想定している。川の氾濫を想定した年に一度の2階への垂直移動訓練は6～7月に予定。町内会・系列病院との連絡体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言葉掛けに注意をしているが、時には声が大きくなってしまふ事や入浴や排泄の声掛けに配慮が欠ける部分もある。プライバシーの保護に務めていけるよう努力していきたい。	自尊心・羞恥心等尊厳を大切に、不快にならない言葉遣いに注意し、入浴や排泄時の声掛け等は他に聞こえないよう小声での配慮をしている。入室の際は承諾を得てから入るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や食事、午睡、活動等入居者の思いや希望を尊重し、運動や活動等の活動に参加して頂いている。好きなこと、やりたい事を確認し、自己決定が出来る様働き掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時には職員の都合に合わせてしまう事もあるが、入浴や食事、午睡時間等一人一人のペースを大切に、希望に添えるよう支援している。		

グループホーム「里の家」1階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な理美容院の通ったり、訪問美容で定期的にパーマを掛けている方もいる。起床には身支度や季節に応じた服装になれるよう気を付けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の個々の食事の好き嫌いは把握している。日常的に食事の準備は行えていないが、行事食や手作りのメニューを提供し、調理の段階から参加して頂く事もある。食後は食器やお膳拭き等を手伝って頂いている。	味噌汁・ご飯を含め朝・昼・晩と三食共手作りである。利用者は職員と協力し個々の力に応じた副食の盛り付け等をして一緒に食事を楽しんでいる。咀嚼困難の場合には「刻み」や「とろみ」食等に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の食事量や水分摂取量は把握している。食事はひとり一人に合った形態で提供し、食事量が少ない方には病院から栄養補助剤を処方してもらう事もある。朝、起きれない入居者には時間をすらして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には口腔ケアを行って頂いている。口腔ケアが不十分な方には職員の介助を行ったり、定期的に歯科でクリーニングを実施して頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて排泄用品を使用している。夜間はポータブルトイレや大き目の尿取りパットの使用。トイレで排泄、失敗が少なくなる様、声掛け誘導を行っている。	自立排泄の利用者にはチェック表でトイレ誘導や声掛け等を行っている。夜間は転倒防止のため、ベッドセンサーや簡易トイレ・尿取りパッド等を使用している。トイレでの自立排泄に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ユニットの殆どの方が下剤を服用している。運動や食事、水分摂取量には気を付けているが、便秘が解消するのは難しい状況で下剤に頼りがちである。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の間隔空いている時や受診の前日に入浴出来る様に務め、週に2~3回入浴出来るよう支援している。中には1時間近く入浴している方もおり、個々に沿った支援をしている。	脱衣所も広く、ユニットバスはゆったりと足を伸ばせる大きさを浴槽も清潔に管理されている。週2~3回、個々の体調に合わせて入浴剤を入れる等工夫して、楽しく入浴が出来るよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具類の定期的な交換を行い清潔保持に努めている。午睡時間や就寝時間は自由であるが、中には就全薬を服用しないと眠れない方もいたり、トイレに頻繁に通い十分な睡眠がとれていない方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の事を全てを理解するのは難しいが、処方箋や受診記録を見たり、時には医師に薬の事を聞き、入居者の症状の変化、確認に努めている。		

グループホーム「里の家」1階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の力が発揮出来るよう、家事仕事や活動に参加して頂いたり時にはドライブや季節に合った行事。中には麻雀を楽しまれている入居者もいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者、一人ひとりの希望に沿った外出は出来ていない。行事でのドライブや外出、散歩等の支援を行い、外出した際には良い気分転換になっている。家族や地域の人々と協力しながらの外出する事は出来ていない。	平時は戸外で白鳥観察や花見・紅葉等季節に応じ手作り弁当等を楽しんでいたがコロナ禍により自粛している。本年4月中頃より徐々に緩和が進み、今後の推移状況を見ながら戸外での外出支援を計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことは理解している。入居者の中でお小遣い程度、現金を所持している方はいるが、お金を使う機会は少ないが、時には受診の帰りにコンビニで買い物をする時がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々に届く、手紙や葉書きは本人に手渡し、家族から電話が来れば、本人と話をしている。又本人から家族へ連絡したい希望があれば、電話を掛ける支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は季節ごとの装飾(クリスマス、や適切な換気、室温管理を心掛け、清潔保持や衛生管理に気を付けている。入居者が安全に生活が送れる様、物の配置に配慮している。	共用空間には、畳敷きで窓側が板の間、掘り炬燵付きの小上がり仕様で仕切り戸の無い10畳程の和室が付随されている。パネル暖房で2台の空気清浄機を備え、室温・風通し・採光等適切に管理され衛生管理も保たれている。季節により桜の工作絵等が壁に貼られ居心地良く過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では入居者それぞれ自由に過ごして頂いているが、場所は決まりがちになっている。入居者同士の会話や活動を行っており、共有空間はくつろげる空間になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた生活用品や仏具、入居者の作品や家族の写真を飾っている。少しでも心地よく生活が行えるよう工夫している。	入口壁には花を遇った木製の表札が掲げられ車椅子対応の幅広い引き戸で中の灯りが確認できる。パネル暖房で室温調整は好みに合わせて設定出来、クローゼットが設置されている。位牌やテレビ等を持ち込み居心地良く過ごすことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、手摺も多く設置している。安心した生活に繋げられるよう工夫している。		